

テレビもインターネットもない時代、書店は人々の文化的な生活を支える拠点であり、情報が流通する重要な結節点だった。

台湾・新高堂書店

村崎長昶——事跡と回想録

全一卷

近代日本／台湾の関係史の出版・文化史・衛生史の側面を描くものとして、第一級の資料!!

九 大新聞紙上に突然新高堂打倒の叫び挙がる。店員の横領。兄上の逝去。

当時、

店は台北市小公学校の教科書を独占し、官私立中学、高女、商業、医専、台大の教科書を供給し、其他島内不足の教科書補充の任に当り、文化の普及に随ひ、店頭は顧客に充満し、船便毎に図書雑誌山をなして殺到し、全島輸入図書の大半は新高堂で取扱ふとの評判ある程の盛況であった。此時付近に尾古書店新たに開業した。店主は切田高商校長内地高商時代の弟子である。且つ新渡台の台湾一の新聞の主筆が、事情不案内の爲め、同県の関係からこれに応援し、尾古書店の擁護と其大敵の新高堂打倒に乗り出し、大新聞の威力を利用し、連日新高堂攻撃の記事を満載し、果ては紙上半頁大の一欄を設けて新高堂横暴の投書を募集するなど、全力を傾注し、一方切田校長は内地の我取引先へ攻撃の新聞を連送して、取引中止を勧告し、今や新高堂は世論の総攻撃に直面し、早晩自滅の外なし云々と放言し、議論に及ばず、取引先からは一々其書面を手許に送り来る。早晩自滅の外なし

書誌・出版史・書物メディア史のシリーズ
* 文圖文献類従 75*

著者—村崎 長昶

ひび よしたか

編・解題—日比 嘉高 (名古屋大学)

本—A5判・糸上製函・総 246 頁

格—16,800 円

記—2020 年 1 月

ISBN978-4-909680-62-4

著者紹介

村崎長昶

(おろさきながあき、1870 - 1950 年)

熊本県不知火村生。1885 年中学済々養入学、91 年沖繩にわたり『琉球雑言』、『琉球風俗記』の二書を著述。98 年台湾で新高堂を開業。1903 年日露戦争の際、雑誌・書籍とも売上げを大いに伸ばす。21 年の台湾書籍商組合結成以来、敗戦まで組合長。46 年大分県に引揚が。

『台湾・新高堂書店 村崎長昶——事跡と回想録』総目次細目

■『記憶をたどって 八十年の回顧録』(1983年6月3日発行)

序 1=19~20

目次 1=21~24

(第1章—郷里時代と各県の遍歴)

1、生ひ立ち 1=27

2、大水害に遭い一家没落す。災後の辛酸 1=28~30

3、明治10年の役起り、戦禍に逃げ惑ふ 1=31~34

4、我家の家風。中学時代の苦学。一家赤痢に悩まされる。眼疾の永嘆ひ 1=34~38

5、宮崎県へ書生勤め。帰郷後の教員生活 1=39~42

6、沖繩県、三重県の書生勤め。滞京中から台湾に渡るまで 1=43~48

7、信念の一、二 1=48~50

(第2章—台湾時代)

1、台湾授受と始政記念式。台北、基隆の

11、領台40年記念博覧会で売店部を担当す 1=91~93

12、島内及内地の遍歴。50年の苦勞晩年に酬ひらる。我日常生活、趣味と嗜好 1=93~97

13、開戦直後の連戦連勝。梅田、村崎の婚儀。無条件降伏まで 1=97~102

14、終戦後台北信用組合の善後処理。台北引揚の顛末。在台中我家の変遷 1=102~107

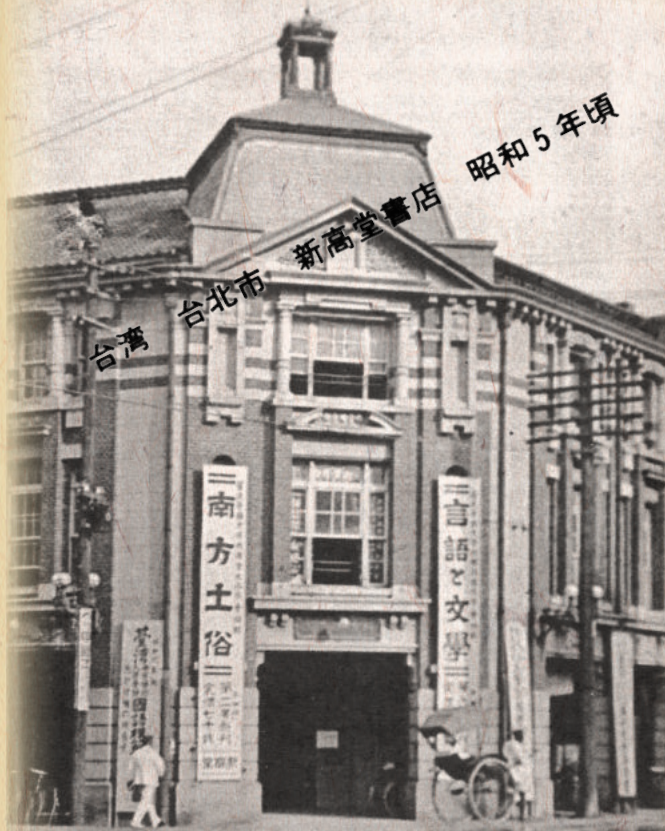
15、公職、組合、会社、社交関係、出版圖書の概略 1=107~112

(第3章—引揚時代)

1、大分県立石町に引揚ぐ。杵築町に仮住す。郷里への帰住を思ひ切る。東上の決心 1=115~119

2、東上後の困苦。久子の早逝。糟糠の妻に死別。半永久の居宅に落着く。窮すれば通ず 1=119~124

3、引揚後の感想 1=124~127



日比嘉高

- ・ 解題「外地出版文化史の第一級史料」
 - 一、外地書店からみえる帝国の書物と知と人の風景／
 - 二、日本近代史の立会人 村崎長昶／
 - 三、外地書店の商売の実態をうかがう／
 - 四、台湾統治史の点描／
 - 五、自伝の危うさと面白さ／
 - 六、新高堂書店、その後
- ・ 「新高堂書店 出版図書、雑誌、地図 総覧（稿）」
- ・ 「外地書店を追いかける」〔『文献継承』連載全10回集成〕

本書収録資料

【全一卷】

村崎長昶『記憶をたどって 八十年の回顧録』（西田書店、1983年6月）

〈附録〉台湾書店・読書関係資料

一、甕港生「台北の本屋さんに物申さん」（『台湾警察時報』302号、1941年1月）

翻刻資料

- 二、「本屋の五分間」（『台湾日日新報』1904年4月10日）
- 三、「台北の愛読雑誌」（『台湾日日新報』1909年6月24日）
- 四、「新刊雑誌の読者」（『台湾日日新報』1917年2月5日）
- 五、「台湾の読書会—新刊雑誌の驚く可き激増／殊に婦人幼年物の大激増」（『台湾日日新報』1917年2月27日）
- 六、「欲も得もなかった」（『台湾日日新報』1918年5月1日）
- 七、「文武街（新高堂より総督府新庁舎を望む）」〔図版〕（『台湾日日新報』1918年5月12日）
- 八、「書籍商組合の解剖」（『台湾日日新報』1922年3月9日）

*総目次細目

植民地書店経営者当人の証言!!
戦前の台湾、外地における書物文化を考える
貴重な記録!!

台湾・新高堂書店 村崎長昶 — 事跡と回想録

本書と連携する資料集

『戦前期の台湾出版目録—帝国日本の「全国」書誌編成』全四・別巻

編・解題—春山 明哲
 造 本—A5判・糸上製函 総1,604頁
 価 格—全巻揃価 113,000円

『戦前期「外地」図書館資料集—台湾編』全十巻

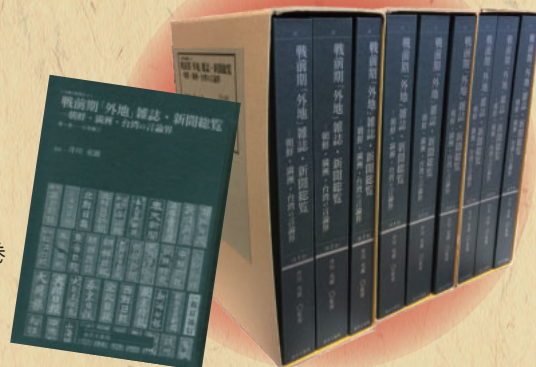
編・解題—春山 明哲
 造 本—B6判・糸上製函 総3,940頁
 価 格—全巻揃価 198,000円

『台湾総督府図書館長・山中樵—事跡と回想録』全一卷

編・解題—春山 明哲
 造 本—B6判・糸上製函 総314頁
 価 格—16,800円

『戦前期「外地」雑誌・新聞総覧—朝鮮・満洲・台湾の言論界』全九巻

監 修—井川 充雄
 造 本—A5判・糸上製函 総3,006頁
 価 格—180,000円



Kanazawa Bunkokaku
金沢文圃閣

〒920-0867 金沢市長土堀2-16-30

Tel 076-261-8884 Fax 233-3111

□書店様へ…ありがとうございます

直接小閣までお申し込みください

図版はすべて本書より

価格は税別 051/1/4000